

環境未来都市構想とこれからのまちづくり

—SDGs、パリ協定等に基づく
統合的アプローチとグローバルパートナーシップ—

村上 周三

東京大学 名誉教授 (工博)
環境未来都市 推進委員会 座長

持続可能社会に向けた グローバルな政策課題



SDGs (Sustainable Development Goals) (2015.9)

⇒ 環境品質Qの向上

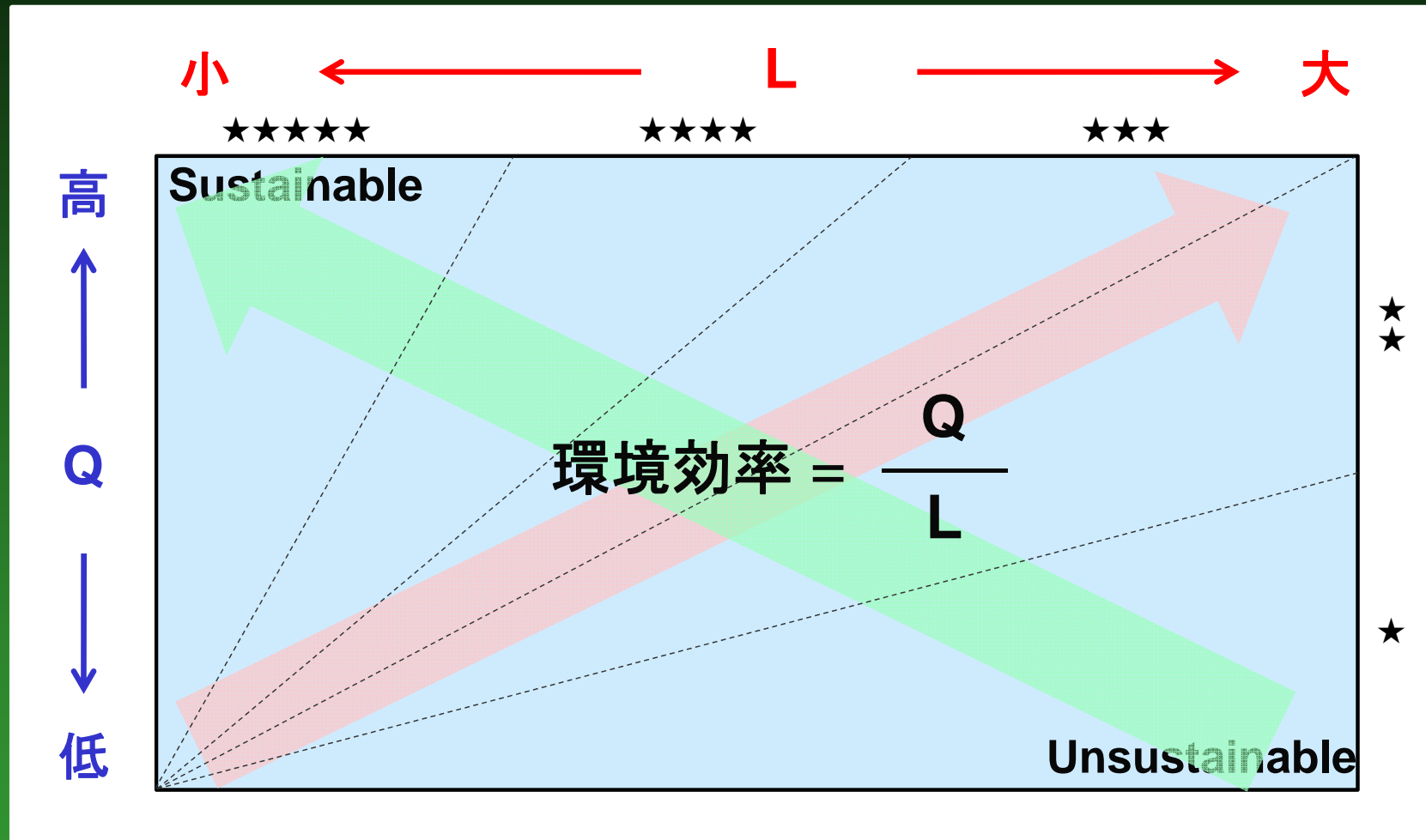


パリ協定 (2015.12)

⇒ 環境負荷Lの削減 (CO₂排出量)

⇒ 環境計画の2大因子としての Q と L

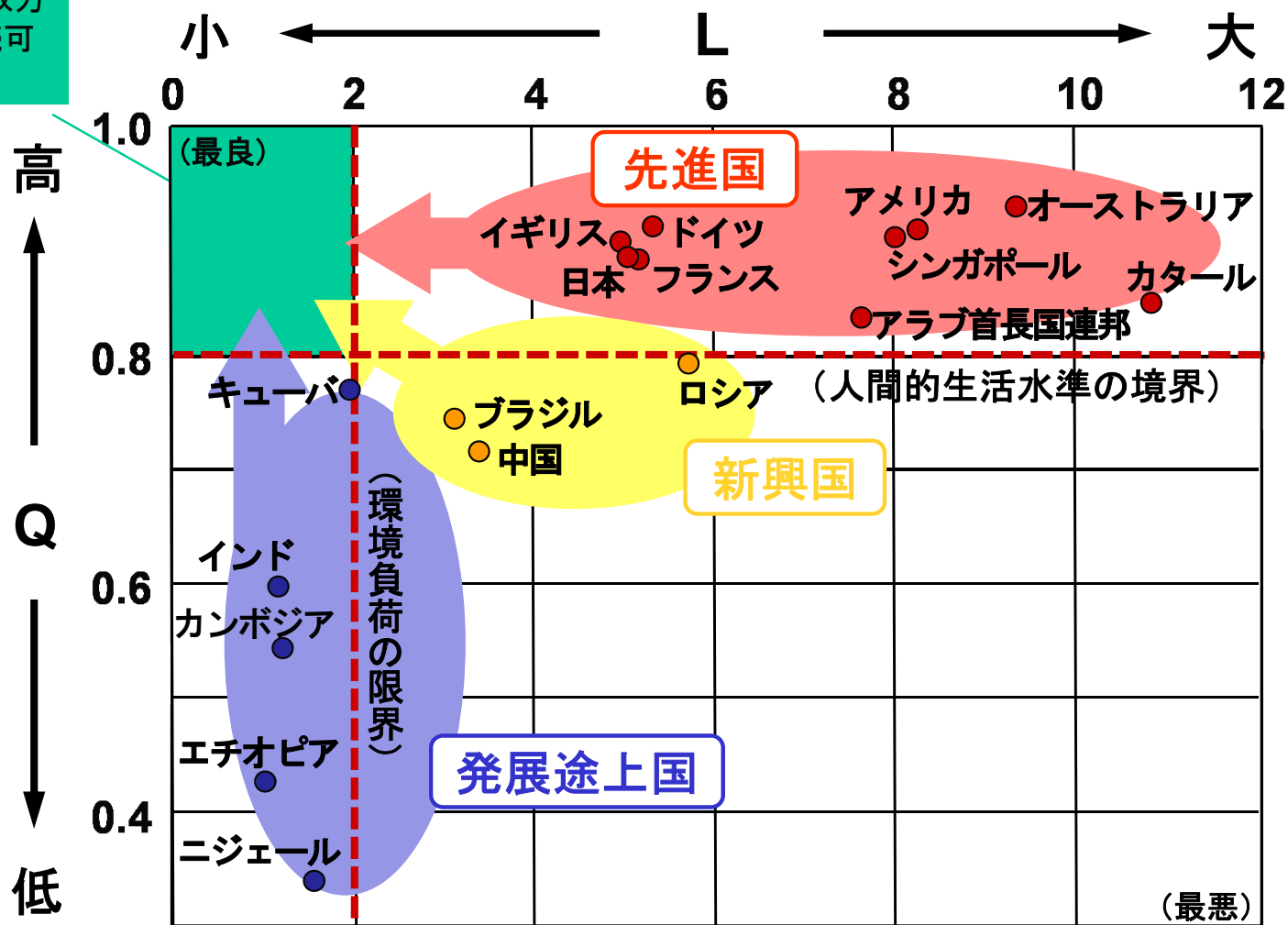
2つの政策課題の統合的評価



⇒ Lの削減とQの向上に基づく持続可能社会の計画

地球と人類の持続可能性評価

地球と人類双方
にとって持続可
能な領域



横軸
L: 環境負荷
Ecological
Footprint

(Biocapacity
で無次元化
した概算値)

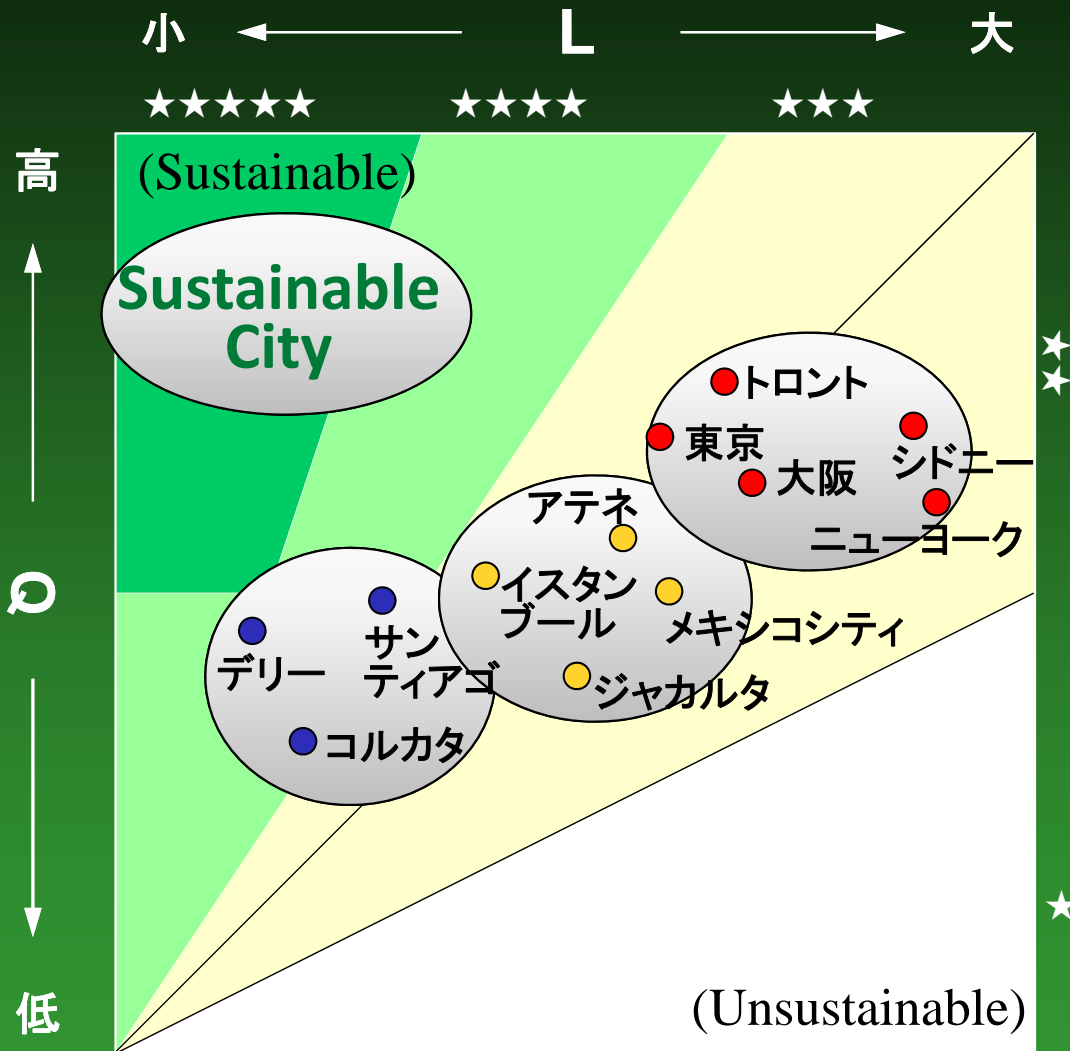
縦軸
Q: 環境品質
Human
Develop-
ment
Index
(人間開発指数)

参考資料: Global
Footprint Network,
How We Can Bend the
Curve,
Global Footprint
Network
2009 Annual Report

⇒ 先進国: 如何にしてQを低下させずにLを削減するか

⇒ 発展途上国: 如何にしてLの増加無しにQを向上させるか

都市の持続可能性評価 (CASBEE-都市(世界版))



グループ赤(例: トロント):

Lを削減する必要

グループ黄(例: ジャカルタ):

Lの削減とQの向上

グループ青(例: コルカタ):

Lを増加させることなく
Qを向上させる

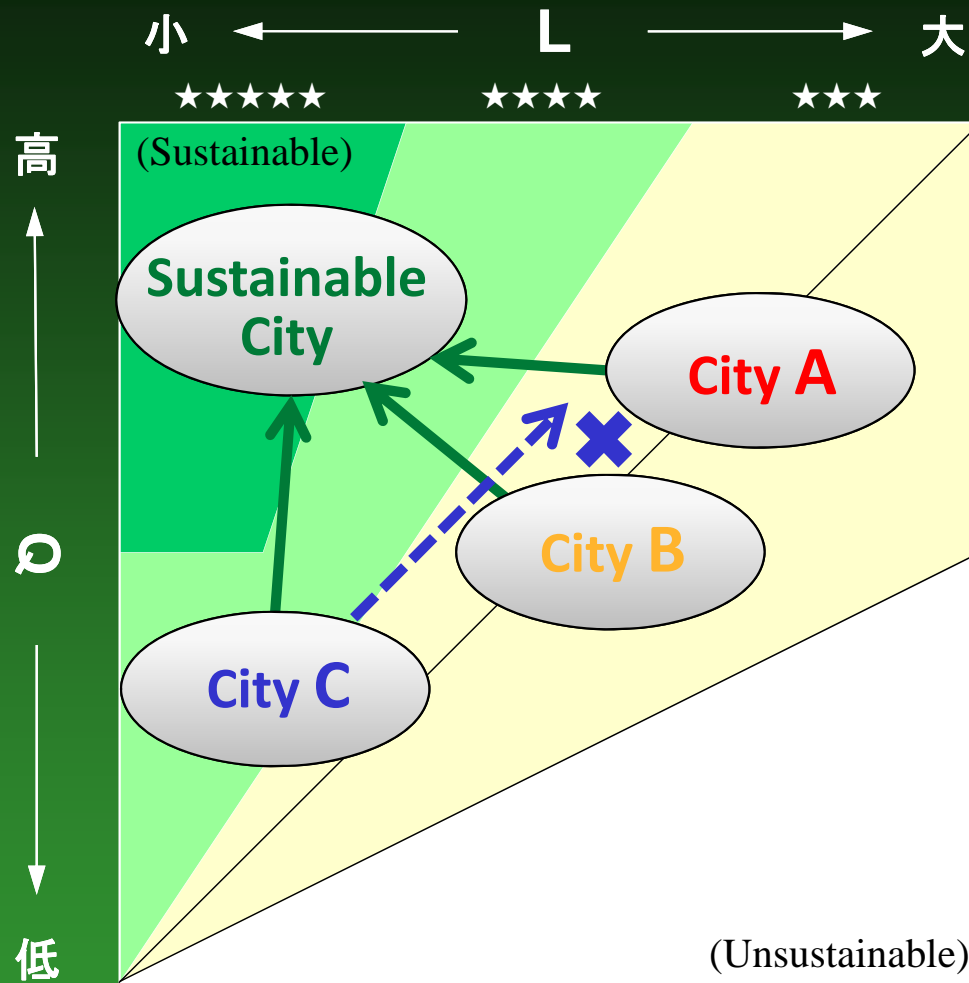
L = CO₂排出量(／年・人)

Q = SDGs等に基づく

⇒ 環境効率が低い先進国型都市

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency 5

都市環境改善の方向 (CASBEE-都市(世界版))



City A
(in developed countries):
Lを削減する必要

City B
(in emerging countries):
Lを削減しながら、且つ
Qを向上させる必要

City C
(in developing countries):
Lを増加させることなく
Qを向上させる必要

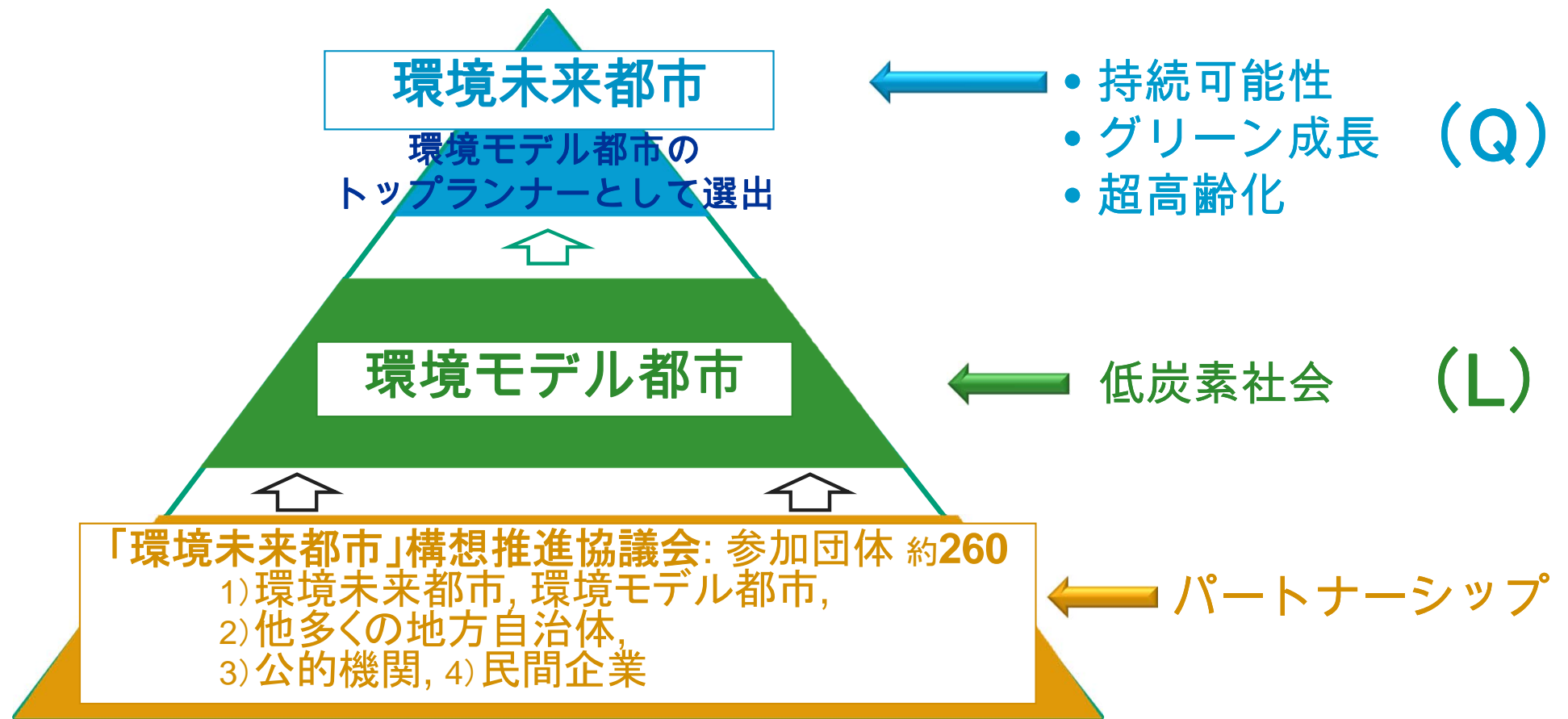
L = CO₂排出量(／年・人)
Q = SDGs等に基づく

⇒ 先進国の義務: 早くサステナブルシティを実現して
発展途上国にモデルを示すこと

⇒ 2050年 CO₂ 80% 削減の緊急性



「環境未来都市」構想の推進体制





「環境未来都市」構想の活動概要

1. 中央政府による認定
 - ⇒ 各自治体において、全部局による統合的アプローチ
2. 市民に対する達成すべき目標の提示
 - ⇒ 市民と自治体のパートナーシップ
3. 有識者によるアドバイザリー会議
 - ⇒ 先導的持続可能社会のデザイン
4. 「環境未来都市」構想推進協議会の設立
 - ⇒ 産業界／公的機関と自治体のパートナーシップ
5. 国による評価と公表
 - ⇒ PDCAの実施と首長のガバナンスの向上
6. ベストプラクティスの内外への発信
 - ⇒ グローバルパートナーシップ



「環境未来都市」構想のねらい

- ⇒ まず、未来の持続可能社会の明確なイメージを市民に提示する必要性
- ⇒ 達成すべき具体的イメージとしての環境未来都市
- ⇒ 身近な目標の実現に向け、市民にライフスタイル変革の動機付けをする
- ⇒ 国内外に向けて、環境未来都市の仕組みとベストプラクティスを普及展開
- ⇒ グローバルな枠組みで持続可能社会への移行を促進



環境モデル都市（合計23都市）

（13都市 + 7都市 + 3都市，平成20年～平成25年）

【平成20年度選定都市：13都市】

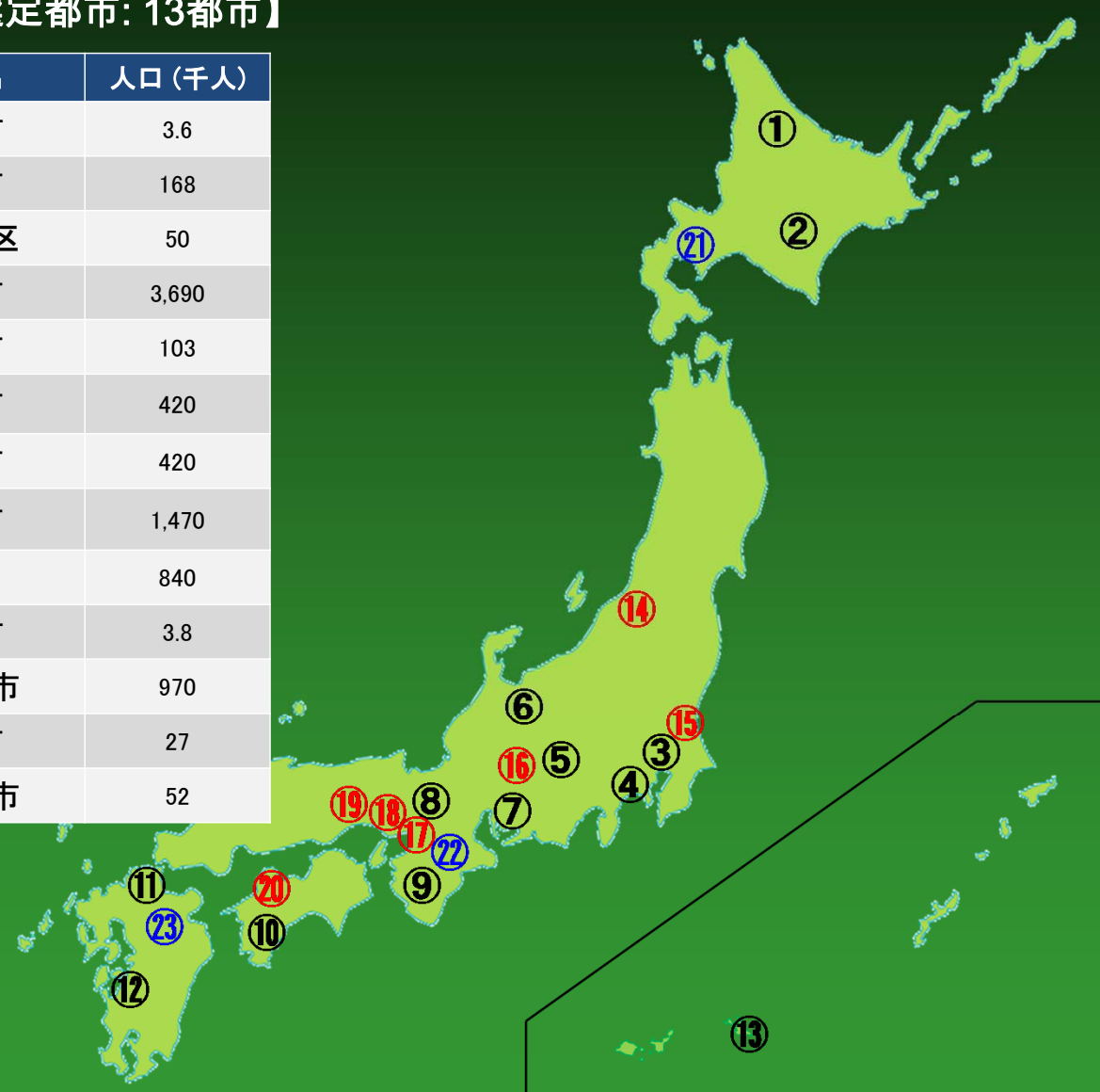
No.	市区町名	人口(千人)
①	下川町	3.6
②	帯広市	168
③	千代田区	50
④	横浜市	3,690
⑤	飯田市	103
⑥	富山市	420
⑦	豊田市	420
⑧	京都市	1,470
⑨	堺市	840
⑩	梶原町	3.8
⑪	北九州市	970
⑫	水俣市	27
⑬	宮古島市	52

【平成24年度選定都市：7都市】

No.	市区町名	人口(千人)
⑭	新潟市	808
⑮	つくば市	217
⑯	御嵩町	19
⑰	尼崎市	451
⑱	神戸市	1,542
⑲	西粟倉村	1.6
⑳	松山市	513

【平成25年度選定都市：3都市】

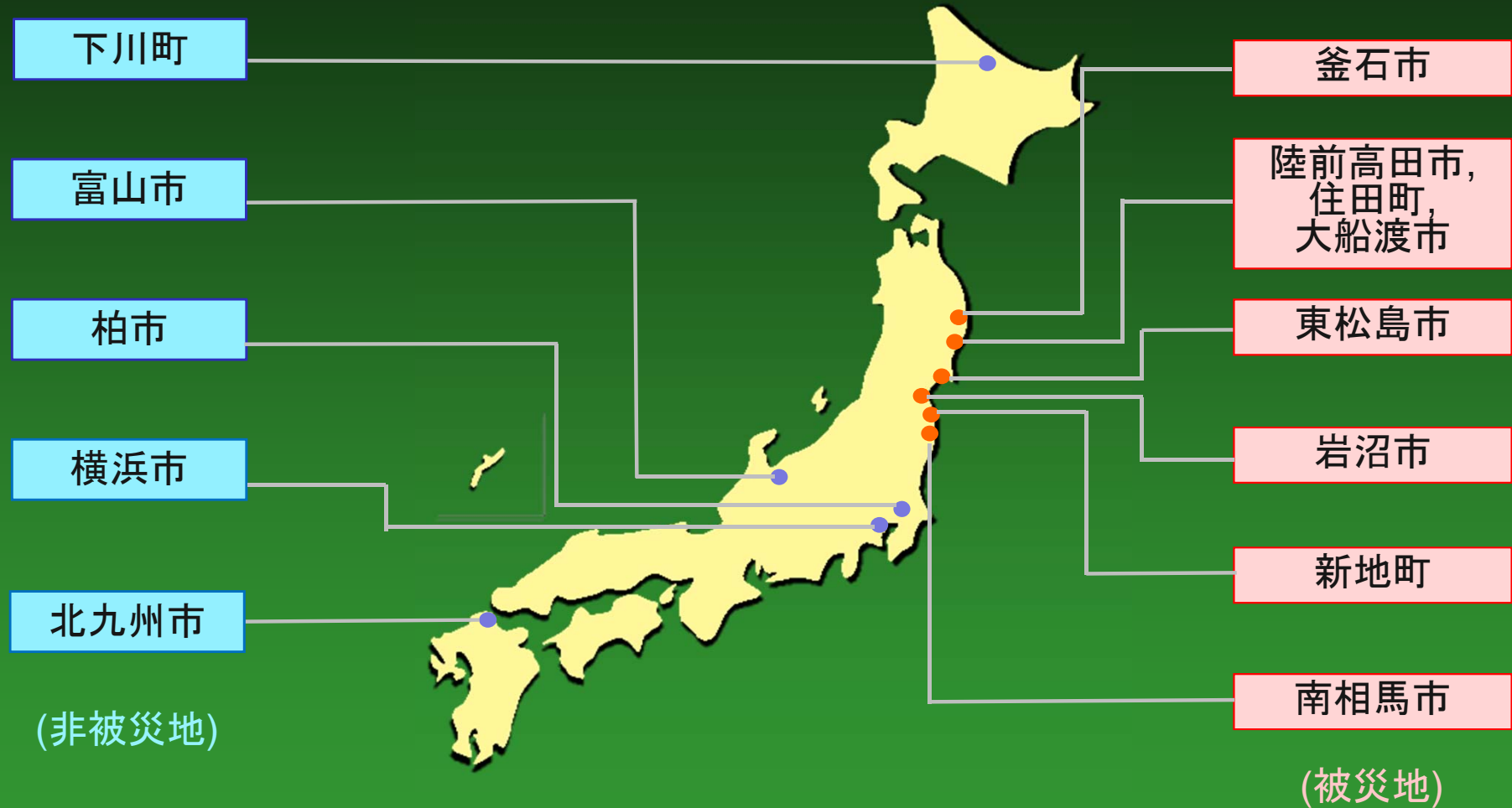
No.	市区町名	人口(千人)
㉑	二セコ町	4.8
㉒	生駒市	121
㉓	小国町	7.9



⇒ 低炭素社会に向けた多数のベストプラクティス



環境未来都市 (11都市: 平成23年)

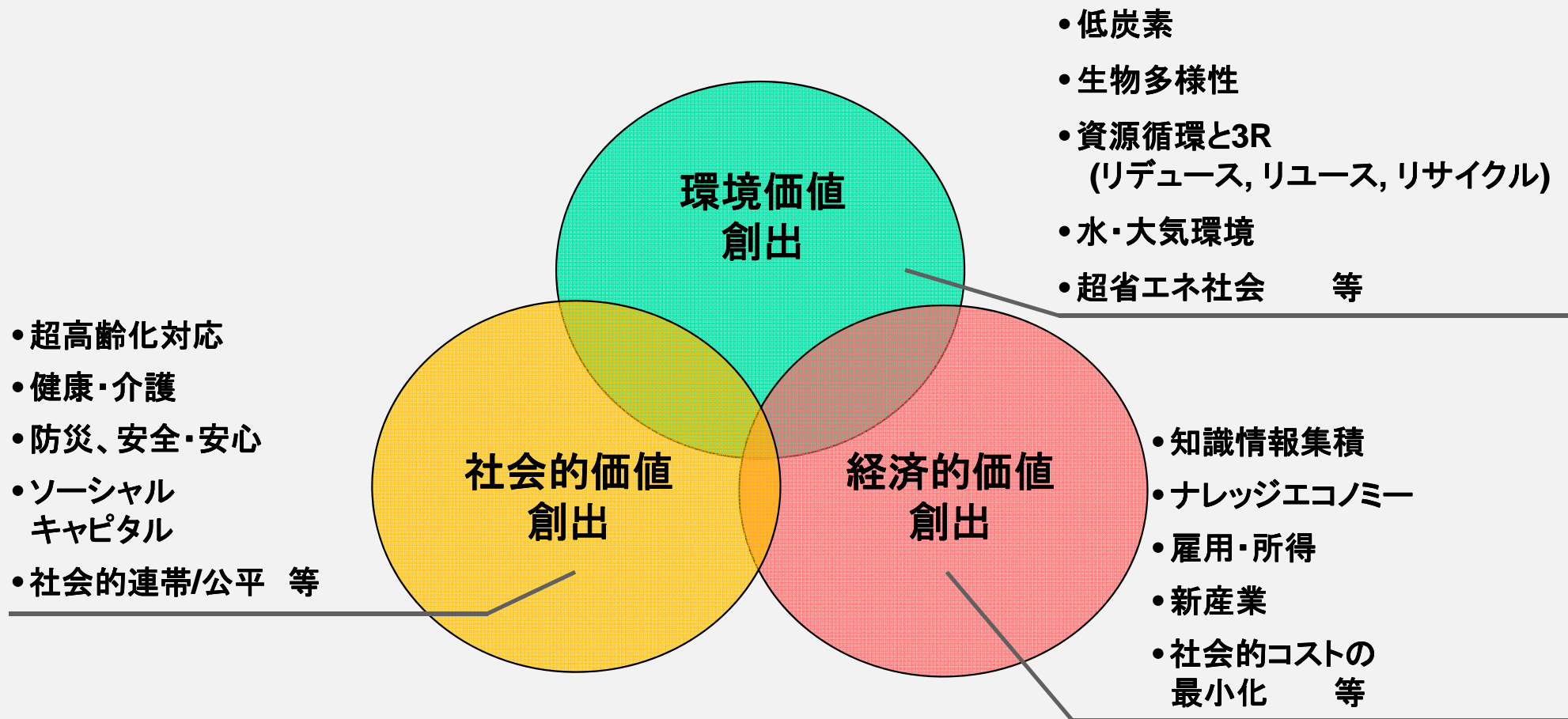


⇒ 持続可能な社会に向けて多様な意欲的提案



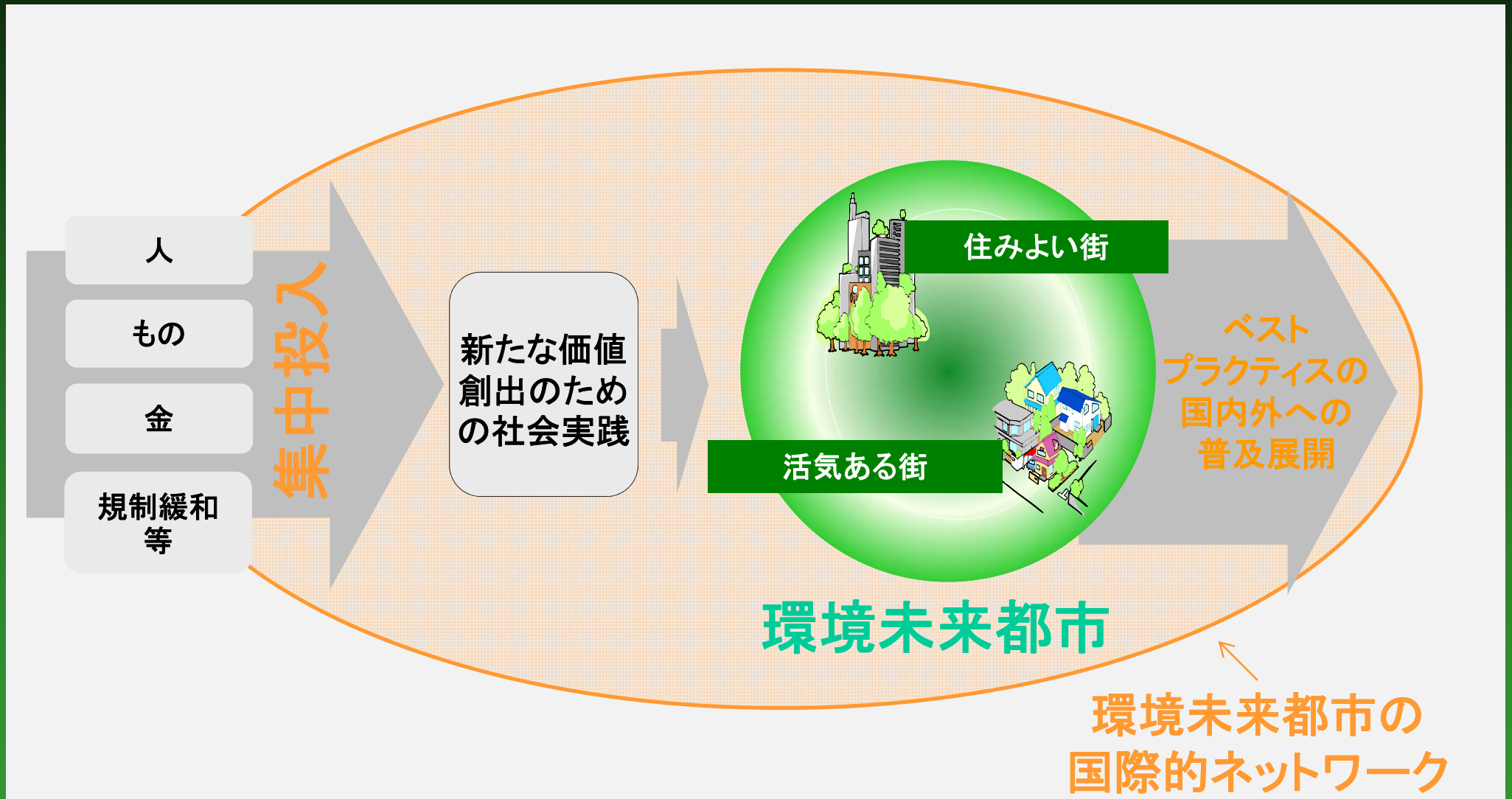
グリーン成長に向けた 3つの価値創出

⇒ 環境価値創出、社会的価値創出、経済的価値創出





環境未来都市実現のプロセス





(リオ+20)での国際発信

日本政府主催の公式サイドイベント:
“Future Cities We Want”



外務大臣の挨拶



村上周三(有識者検討委員会委員長)による、
「環境未来都市」構想の紹介

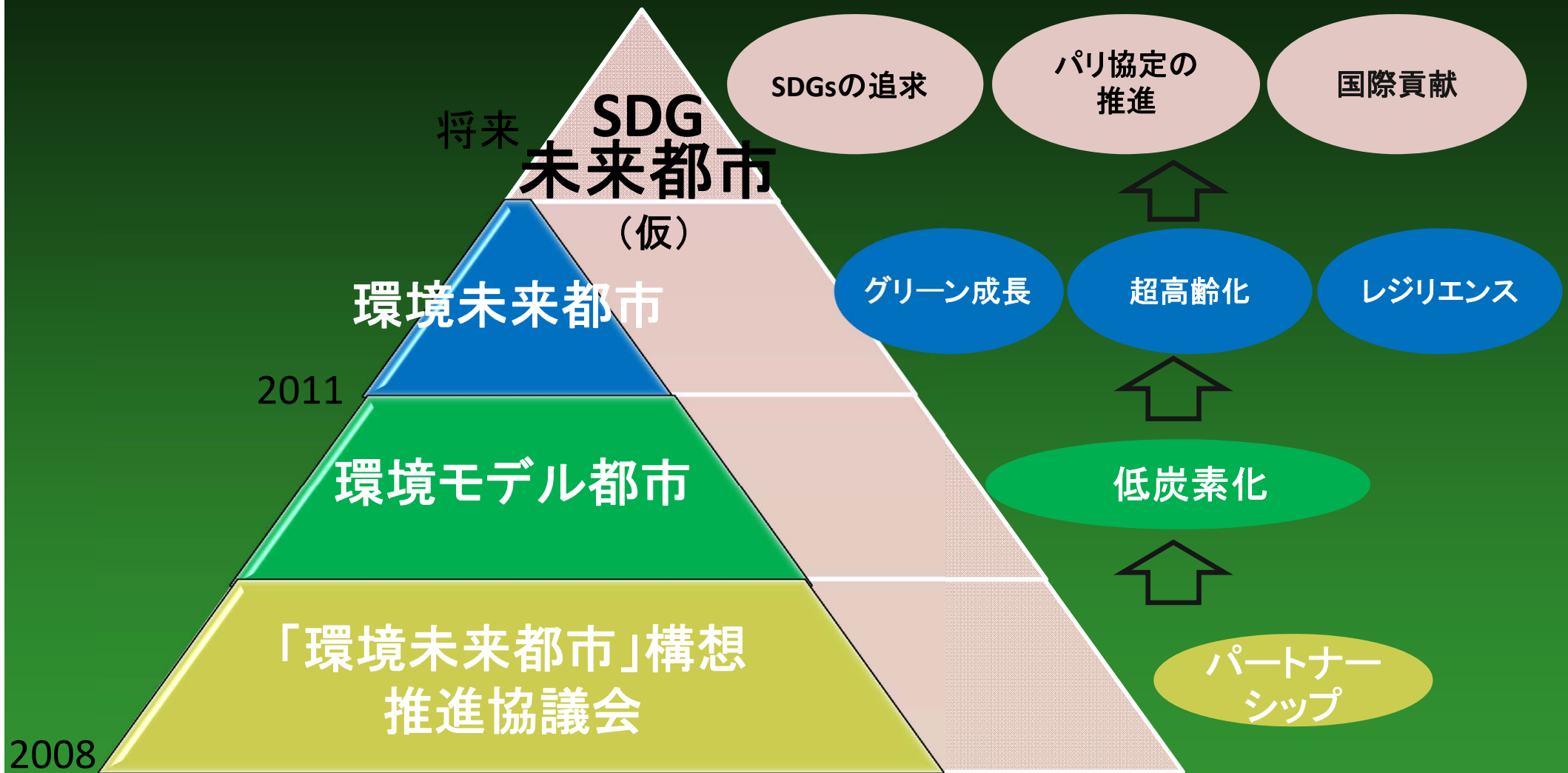
(リオ+20:国連「持続可能な開発」会議)



なぜ、「環境未来都市」構想は 大きな成功を収めることができたのか？

1. 中央政府から与えられた環境未来都市という称号により、地方自治体が持続可能社会の実現に向けて強く動機付けされた
2. 各環境未来都市は、自身の構想に基づいた計画を推進し、自律的な好循環モデルを構築した

「環境未来都市」構想の今後



◆「環境未来都市」構想の達成

◆更なる「環境未来都市」構想の推進

◆将来の方向性：SDG未来都市